

平成 21 年 2 月吉日

「日中現代農業創新フォーラム」に参加して

畑中敏彦

◎ 参加のきっかけ

2008 年 11 月 4 日頃に、農文協張安明氏より私の携帯電話に 12 月 7 日から 12 月 12 日まで中国山東省青島・威海市で日中現代創新フォーラムを開催するので、是非参加して欲しいとの連絡があった。詳しい内容については、案内を郵送するので、見てほしいとのこと。資材メーカー等にも声がけもしており参加の予定であり、私が参加するのに良い機会であるとのこと、私がやや躊躇していると感じたのか「畑中さん行こうよ」と強い口調であり、やや驚き君に参加を検討すると約して電話を終えた。

張氏とは、私が㈱タカキタという農機具メーカーに銀行から出向していたとき、2004 年 9 月 13 日～19 日中国の農機具市場調査のため訪中した時、訪中先のコーディネーター・通訳として大変お世話になった。その調査旅行を通じて、張氏が鹿泉市・鎮江市の調査・指導を行っていること、そして農文協という組織に属していることを初めて知った次第です。

◎ フォーラムに参加して

成田でフォーラム参加者今村先生、農協関係者黒澤、海谷各氏及び農文協の関係者と合流し、中国青島から威海市のフォーラム会場である藍天賓館に到着する。ホテルの玄関に「熱烈歓迎」の横断幕と多数の関係者の出迎えに圧倒されつつ予想以上の規模のフォーラムだとまずは感じ、またホテルの室内に配置されていたフォーラム関係資料の質・量を見て、自分自身の参加目的に少々不安を覚えつつ歓迎宴に臨む。

鹿泉市での歓迎宴で白酒を飲みすぎて前後不覚におちいった失敗を繰り返すまいと旨に刻んで臨むも、同テーブルの中国の方とか朝日緑源有限会社岩瀬・田中各氏と杯を重ねて酔酩気味で宴を辞することになった。

翌日からのフォーラムでは参加者約 200 名とのことで参加人員の多さに改めて中国側のフォーラムに対する熱熱のいれ方が伝わってきた。私の隣席に青島農業大学の宋さんがおられ日本にも留学され非常に日本語が堪能な方で、山東省の経済・農業情勢・観光情報から彼の出身地・家族構成・交際している彼女の話までおよび、温厚で誠実な人となりを感じさせる人物であった。日中の学生の交流が今後とも必要であると感じられた。

フォーラムの発表者の中で、王楽義氏の科学技術にもとづいた温室でのキュウリ等の生産を通じて万元戸の育成を行った事、中国改革は農業が中心であるとの発表は現場・現地での実践を通じての話で強い印象が残り、王氏は中国農業指導者のいぶし銀的存在と思われた。

日本の農産加工メーカーと中国側との商談会に張さんより参加の依頼により参加するも、オブザーバーとして参加すると張氏には伝えた。しかし、中国側参加者よりトウモロコシ・牧草サイレージの方法について質問が出て、私が勤めていた農機具メーカー（株）タカキタのロールベアラーによるトウモロコシのサイレージの方法及びトウモロコシを乳牛に与えることにより、付加価値が高い乳牛を産出が可能であるとの話をさせていただき、尊敬している魯迅先生の思いを語らしていただいたとこと、参加者から拍手があり私としては驚きと感激となった。参加者からトウモロコシのサイレージの方法、ロールベアラー等のパンフレットを持参しなかったことをお詫びするとともに農文協さんを通じてパンフレットを送付することを約した。最後に姚先生から「畑中さんによる事を教えてもらった」との発言に対して深い感銘をおぼえ、フォーラムに参加して本当によかったと思い、これは張氏の明通訳であり、あらためて感謝する次第です。

◎ 現地の農村視察について

（株）タカキタに勤務していた時から、朝日ビールが山東省青島市で地元への貢献として牧場建設の計画をされていること耳にしており、是非行きたいと思っていた所であった。山東省朝日緑源有限公司は予想した通りの近代的なモデル農場にふさわしい設備を整えられており、牛乳は中国市場で高価格であっても安心・安全面で受け入れられ、商業ベースに乗っているのがよく理解できた。これらは、日本側のスタッフ岩瀬氏・田中氏の並々な御努力による中国側スタッフに対する指導によるものと思われ、色々と難しい課題があるようだが、中国農業に対してよい波及効果を期待したい。最後に視察した、青島市の城陽市場の場内を見てタイムスリップにおちいった感じで、喧騒に満ち日本の昭和 30 年代の市場を思い出された。この様な市場の流通システムは私にはよく理解できなかった。

今回フォーラムに参加して思った事は、私は農機具メーカー的立場で参加したが、今後はメーカーとして丹に売らんがための参加ではなく、現地農村の現状にあった提案型営業が重要であると感じた。現在、中国からの輸入農産物に対して強いアゲンストの風が吹いている。これを克服するには長い時間と努力が必要である。日本に良いと思われる農業組織・農産物流システムを構築できる様に実情にあった提案を行い、継続的に交流を行えば、日本の消費者に安心・安全な農産物を輸出する体制作りが可能である。私もそのための一端を担えるように努力したい。

「疾風に勁草を知る」中国古い言葉をかみしめる次第です。